

令和5年度

事業報告書

社会福祉法人 三恵会

事業報告目次

三恵会本部	1～ 2
特別養護老人ホーム きぼうの苑	3～ 4
障害者支援施設 あゆみ苑	5～ 6
ケアハウス 夢テラス	7～ 8
障害者支援施設 三恵ホーム	9～11
児童福祉施設 十全保育園	12～14
特別養護老人ホーム ハートランド三恵	15
老人保健施設 リハビリステーション三恵荘	16～17
老人保健施設 希望の館	18～19
通所介護事業所 おいでんや	20～21
多機能型事業所 わくわくクラブ	22～23
地域子育て支援事業（ひろば型） にこちゃんパーク	24～26
地域密着型特別養護老人ホーム うみかぜ	27～28
グループホーム かがやき	29～30
児童福祉施設 中萩保育園	31～34
養護老人ホーム 慈光園	35～36

三 惠 会 本 部

令和5年度 事業報告

1. 経営方針

令和5年度は、社会福祉法改正後7年目となり、社会福祉法人に求められている「経営組織のガバナンスの強化」、「法人運営の透明性の向上」、「財務規律の強化」について、経営の主体となる「理事」、「理事会」、「監事」、「評議員会」が有効に機能するよう運営を実施してまいりました。

「ガバナンスの強化」では、理事会を5回、評議員会を2回開催し、事業計画、予算、理事及び業執行理事、監事の選任、用地取得、介護ロボット導入に係る契約、各種規程、定款変更など重要事項に対し、審議・決議をしてまいりました。

「財務規律の強化」では、会計監査人の導入により、財務情報や社会的な信頼性の向上だけでなく、経営上の問題点も把握でき業務改善に有効に機能しております。今年度の本業の事業成績は予算未達成でありましたが、本業利益は2億5,619万円(増益)、当期最終利益は8,558万円(減益)と黒字となりました。

中長期計画に掲げる「要員計画」では、要員管理への取り組みについてポイントを説明し計画策定の手法、目的の共有を行いました。令和6年度より策定していきます。

令和4年度に着工した中萩保育園の建替えについては、残りの外構工事(園庭、駐車場等)も無事に竣工し6月に神事、落成記念式典を執り行いました。引き続き安心・安全に子育て支援ができるよう取り組んでまいります。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 中長期計画の策定

第2期経営戦略計画として、内部環境、外部環境の課題を洗い出し、法人の永続性、安定性を確保できるよう取り組むべき項目についてアクションプランを策定する。

(結果)：策定まで至らず継続して取り組んでいく。

(2) 理事会及び評議員会の開催

理事会：事業計画 当初予算 事業報告 決算

理事及び監事の推薦

理事長及び業務執行理事の選定

評議員会の招集

その他定款施行細則に基づく決議事項

評議員会：事業報告 決算報告

理事及び監事の選任

定款の変更

社会福祉充実計画の承認(社会福祉充実残額がある場合)

その他定款及び法令に基づく決議事項

(結果)：理事会5回、評議員会を2回開催し適正な理事会・評議員会の運営ができた。

(3) 中萩保育園の建替え

令和5年5月の外構(園庭、駐車場等)の完成に向けて、安全の確保、予算管理、各契約、各諸手続き、竣工までスムーズに行えるようスケジュール管理を徹底する。
また、6月の落成式に向けて準備をしていく。

(結果): スケジュールどおり手続きを終え、落成式典を執り行うことができた。

(4) 人材確保の取り組み

・安定的な法人運営のためには、職員の確保が必要不可欠である。対面だけでなく、学生が参加しやすいよう Zoom 等を活用したオンラインによるインターンシップ、企業説明会、面接等の実施。

(結果): 新卒者5名を採用することができた。

・奨学金貸与事業により、介護福祉士・保育士を目指す学生に対し、就学に必要な学費の一部を奨学金として貸与することにより、優秀な人材を長期的に確保する。
5年度は1名を目標とする。

(結果): 2名の学生が本事業を活用した。

3、研修計画

(1) 法人内研修

階層別研修(日本経営)

若手層向け研修

第1回 令和5年6月29日 参加者11名

第2回 令和5年7月31日 参加者 8名

第3回 令和5年8月28日 参加者10名

若手層 フォローアップ研修

第1回 令和5年10月30日 参加者13名

第2回 令和5年11月28日 参加者13名

リーダークラス研修

第1回 令和5年 9月26日 参加者18名

第2回 令和5年10月31日 参加者18名

第3回 令和5年11月27日 参加者16名

特別養護老人ホーム
きぼうの苑

きぼうの苑 令和5年度 事業報告

1. 運営の概要

令和5年度は、①新規利用者の獲得と稼働率アップ、②ICT化の定着、③職員個々の人間力の向上（接遇面の向上）を目標として掲げ取り組みました。

稼働率は目標数値に届かない事業所もありましたが、加算の取得などにより、昨年度よりも収入増という結果になりました。各部署や事業所での取り組みの成果が一応見られており、令和6年度も継続し努めてまいります。

【稼働率（目標→結果）】 入所－97.0% →94.6%
短期－60.0% →65.9%
通所－80.0% →76.9%

ICT化・IOT化については、きぼうの苑入所と短期入所の129床に「眠りスキャン」と「眠りスキャンeye」の機器を導入し、利用者の状態把握や業務改善に取り組みました。令和6年度はインカム導入やナースコールとの連動も予定しており、今後も継続し進めてまいります。

人間力の向上については、接遇やハラスメントの研修会開催やアンケートの実施、委員会での評価や対策等取り組みましたが、十分な成果は出ておりませんので、令和6年度も継続し努めてまいります。

2. 具体的な取り組みの実績

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ① 三恵会理念、行動指針に基づいた施設運営の実現を目指しました
- ② 職員相互が連携し、チームワークのとれた業務の遂行ができるよう努めました
- ③ 職員一人一人が真摯に業務に取り組み、ご利用者、ご家族との信頼関係を構築しました

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ① リスク管理や虐待防止を意識した知識の習得、業務の見直し、環境整備に努めました
- ② 接遇マナーの改善・向上に努めました
- ③ 資格取得挑戦への積極的な支援を行いました
- ④ ICTの定着化に努めました（デジタル化、ペーパーレス化）
- ⑤ 災害、感染症対策について、実践に近い形での訓練等を検討し実施しました
- ⑥ 業務マニュアル等の見直しを行い、統一した対応ができるよう努めました

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ① 新規入所者受け入れを円滑に進め、空室の期間を短縮できるように努めました
- ② 部署や事業所ごとに収支のバランスを考えた上での取り組みを実践しました（考える力の向上）
- ③ 職員へのメンタルヘルスケアの実施とパワハラ、セクハラなどの防止に努めました

3. 研修実施報告

(1) 施設内（あゆみ苑、夢テラスと合同）

- ① 三恵会本部主催
新人研修、新人フォローアップ研修、リーダークラス研修 他
- ② 自主研修
 - 4月 防災BCP
 - 5月 虐待防止①
 - 6月 身体拘束廃止①、感染症シミュレーション
 - 7月 褥瘡防止、ハラスメント
 - 8月 リスクマネジメント①（外部講師）
 - 9月 食中毒予防、防災シミュレーション
 - 10月 感染症シミュレーション（外部講師）
 - 11月 虐待防止②
 - 12月 身体拘束廃止②
 - 1月 リスクマネジメント②
 - 2月 新型コロナウイルス感染症BCP（外部講師）
 - 3月 防災BCP、個人情報保護
*その他－救命救急研修会等

(2) 施設外

- ① 老人福祉施設協議会関係－四国、愛媛県、東予地区の各研修会へ参加
- ② 社会福祉協議会関係－愛媛県、新居浜市の各研修会へ参加
- ③ 職種別関係－通所介護、訪問介護、居宅の各研修会へ参加
- ④ その他－ICT化、IOT化、ノーリフトケアの研修会へ参加

4. 行事報告（年間）

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 4月 花見ドライブ 家族会 家族交流会 | 10月 太鼓祭り 防火訓練 |
| 5月 新緑ドライブ 機関誌発行 | 11月 紅葉見物 焼き芋 |
| 6月 菖蒲見学 防災訓練 | 12月 忘年会 餅つき クリスマス会 |
| 7月 七夕 ピアホール | 1月 初詣 新年会 機関誌発行 |
| 8月 慰霊祭・盆踊り | 2月 節分 バレンタインデー |
| 9月 敬老会 機関誌発行 | 3月 雛祭り 防火訓練 イチゴ狩り |
- * 各クラブ活動 定期的実施

5. 地域交流、ボランティア、実習生受入報告

(1) 地域交流 (2) ボランティア活動

※新型コロナウイルス感染防止のため、受け入れ及び参加は中止となりました。

(3) 実習生の受け入れ

十全看護専門学校のみ受け入れ

※その他は新型コロナウイルス感染防止のため、受け入れ中止となりました。

障害者支援施設
あゆみ苑

あゆみ苑 令和5年度 事業報告

1. 運営の概要

令和5年度は、①新規利用者の獲得と稼働率アップ、②ICTの定着化、③職員個々の人間力の向上（接遇面の向上）を目標として掲げ取り組みました。

稼働率はほとんどの事業所で目標数値に届かない状況でありましたが、加算の取得などにより、昨年度よりも収入増という結果になりました。しかし、課題も多く、今後各部署や事業所での取組みを見直し、改善に向けて努めてまいります。

【稼働率（目標→結果）】 入所－98.0% →97.5%
短期－40.0% →31.8%
生活介護－88.0% →84.1%

ICT化については、記録ソフトと連動できる検温機器等を導入し、業務の効率化が図れるように取り組みました。今後も継続し努めてまいります。

人間力の向上については、接遇やハラスメントの研修会開催やアンケートの実施、委員会での評価や対策等取り組みましたが、きぼうの苑と同様に十分な成果は出ておりませんので、令和6年度も継続し努めてまいります。

2. 具体的な取り組みの実績

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ① 三恵会理念、行動指針に基づいた施設運営の実現を目指しました
- ② 職員相互が連携・信頼しチームワークのとれた業務の遂行ができるよう努めました
- ③ 職員一人一人が真摯に業務に取り組み、ご利用者、ご家族との信頼関係を構築しました

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ① リスク管理や虐待防止を意識した知識の習得、業務の見直し、環境整備に努めました
- ② 接遇マナーの改善・向上に努めました
- ③ 資格取得挑戦への積極的な支援を行いました
- ④ ICTの定着化に努めました（デジタル化、ペーパーレス化）
- ⑤ 災害、感染症対策について、実践に近い形での訓練等を検討し実施しました
- ⑥ 業務マニュアル等の見直しを行い、統一した対応ができるよう努めました

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ① 部署や事業所ごとに収支のバランスを考えた上での取り組みを実践しました（考える力の向上）
- ② 欠員が出た場合の入所待機者の効率的入所と入院による空室期間の短縮に努めました
- ③ 職員へのメンタルヘルスケアの実施とパワハラ、セクハラなどの防止に努めました

3. 研修実施報告

(1) 施設内(きぼうの苑、夢テラスと合同)

- ① 三恵会本部主催
新人研修、新人フォローアップ研修、リーダークラス研修 他
 - ② 自主研修
 - 4月 防災BCP
 - 5月 虐待防止①
 - 6月 身体拘束廃止①、感染症シミュレーション
 - 7月 褥瘡防止、ハラスメント
 - 8月 リスクマネジメント①(外部講師)
 - 9月 食中毒予防、防災シミュレーション
 - 10月 感染症シミュレーション(外部講師)
 - 11月 虐待防止②
 - 12月 身体拘束廃止②
 - 1月 リスクマネジメント②
 - 2月 新型コロナウイルス感染症BCP(外部講師)
 - 3月 防災BCP、個人情報保護
- *その他-救命救急研修会等

(2) 施設外

- ① 身体障害者施設協議会関係-中四国、愛媛県の各研修会へ参加
- ② 社会福祉協議会関係-愛媛県、新居浜市の各研修会へ参加
- ③ 相談支援協会関係-相談支援研修会への参加

4. 行事報告(年間)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 4月 花見ドライブ | 10月 太鼓祭り 防火訓練 |
| 5月 新緑ドライブ 機関誌発行 | 11月 紅葉見物 焼き芋 |
| 6月 菖蒲見学 防災訓練 | 12月 忘年会 餅つき クリスマス会 |
| 7月 七夕 ビアホール | 1月 初詣 新年会 機関誌発行 |
| 8月 慰霊祭・盆踊り | 2月 節分 バレンタインデー |
| 9月 機関誌発行 | 3月 運動会 防火訓練 イチゴ狩り |
- * 各クラブ活動、外出行事は定期的実施
* 日帰り旅行は年3回程度実施

5. 地域交流、ボランティア、実習生受入報告

- (1) 地域交流 (2) ボランティア活動 (3) 実習生の受け入れ
※新型コロナウイルス感染防止のため、受け入れ及び参加は中止となりました。

ケアハウス
夢テラス

夢テラス 令和5年度 事業報告

1. 運営の概要

令和5年度は、①新規利用者の獲得に向けた広報活動の充実、②利用者の機能低下防止とリスク管理、③職員個々の人間力の向上（接遇面の向上）を目標として掲げ取り組みました。

広報活動については、新型コロナウイルス感染症が五類に下がっても、市内で感染拡大が続いていたため、地域の中での活動が思うようにできず、十分な成果は出ておりませんので、令和6年度も継続し努めてまいります。

【稼働率（目標→結果）】入所－86.5% →77.6%

利用者の機能低下防止とリスク管理については、利用者個々へ声かけを行い、注意喚起することで少しは意識が上がったと思われます。また、ケアマネジャーとも相談し対応しました。今後も継続し努めてまいります。

人間力の向上については、接遇やハラスメントの研修会開催やアンケートの実施、委員会での評価や対策等取り組みました。一応の成果は出ておりますので、令和6年度も継続し努めてまいります。

2. 具体的な取り組みの実績

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ① 三恵会理念、行動指針に基づいた施設運営の実現を目指しました
- ② ご利用者、ご家族、地域、関係機関等のニーズを把握し、丁寧な説明とサービスの提供に努めました
- ③ ご利用者個々の状態に合わせた支援を行い、安心安全で快適に過ごせる生活環境の整備を行いました

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ① リスク管理や虐待防止を意識した知識の習得、業務の見直し、環境整備に努めました
- ② 関係機関との連携を強化し、情報共有に努めました
- ③ 災害、感染症対策について、実践に近い形での訓練等を検討し実施しました
- ④ 業務マニュアル等の見直しを行い、統一した対応ができるよう努めました

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ① 入退所を円滑に進め、空室の期間を短縮できるよう連絡調整に努めました
- ② 新規利用者を確保するため、積極的な広報活動を行いました（ケアハウス自体の認知度が低いため、地域住民やその他関係機関へ広報できるよう取り組みました）
また、情報収集を行い、関係機関との連携強化・情報共有に努めました
- ③ 職員へのメンタルヘルスケアの実施とパワハラ、セクハラなどの防止に努めました

3. 研修実施報告

(1) 施設内(きぼうの苑、あゆみ苑と合同)

- ① 三恵会本部主催
新人研修、新人フォローアップ研修、リーダークラス研修 他
- ② 自主研修
4月 防災BCP
5月 虐待防止①
6月 身体拘束廃止①、感染症シミュレーション
7月 褥瘡防止、ハラスメント
8月 リスクマネジメント①(外部講師)
9月 食中毒予防、防災シミュレーション
10月 感染症シミュレーション(外部講師)
11月 虐待防止②
12月 身体拘束廃止②
1月 リスクマネジメント②
2月 新型コロナウイルス感染症BCP(外部講師)
3月 防災BCP、個人情報保護
*その他-救命救急研修会等

(2) 施設外

- ① 老人福祉施設協議会関係-四国、愛媛県、東予地区の各研修会へ参加
- ② 社会福祉協議会関係-愛媛県、新居浜市の各研修会へ参加
- ③ 軽費老人ホーム協議会関係-四国ブロック研修会へ参加

4. 行事報告(年間)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 4月 花見ドライブ | 10月 太鼓祭り 防火訓練 |
| 5月 新緑ドライブ 機関誌発行 | 11月 紅葉見物 焼き芋 |
| 6月 菖蒲見学 防災訓練 | 12月 忘年会 餅つき クリスマス会 |
| 7月 七夕 ビアホール | 1月 初詣 新年会 機関誌発行 |
| 8月 慰霊祭・盆踊り | 2月 節分 バレンタインデー |
| 9月 敬老会 機関誌発行 | 3月 雛祭り 防火訓練 イチゴ狩り |
- * 各クラブ活動、買物外出は定期的を実施

5. 地域交流、ボランティア、実習生受入報告

- (1) 地域交流 (2) ボランティア活動 (3) 実習生の受け入れ
※新型コロナウイルス感染防止のため、受け入れ及び参加は中止となりました。

障害者支援施設
三 恵 ホ ー ム

令和5年度 事業報告

障害者支援施設三恵ホーム

1 経営方針と現況について

令和5年度は、設立50周年の節目に際し、以前より掲げていた経営戦略計画における「質の高いサービスと質の高い経営」の実現に向けて更なる努力をし、事業運営を行いました。

- (1) 施設入所支援、短期入所事業においては、利用対象者を身体障害者のみから障害者（身体・知的・精神）へと広げ、稼働率の向上に努めました。

目標値として、施設入所支援においては月平均66名、94%を最低の稼働率とし取り組みましたが、施設が3障害へと対象者を広げたことの認知度の不足、在宅福祉サービスの充実等により稼働率の向上には至らず、結果として、月平均59名、84.3%の稼働と低迷しました。

短期入所事業においては月平均2名、50%を最低稼働率として取り組んだ結果、2.3名、58.6%と最低稼働率を上回りました。

相談支援事業においても、契約者140名を最低契約者数として取り組んだ結果、最低契約者数を上回る146名の契約者の獲得が出来ました。

どの事業においても最低目標値を掲げ、最低目標を上回るよう職員と共に一丸となり、努めました。今後も引き続き、行政や相談支援事業所に働きかけ、利用者の獲得に努めて参ります。

- (2) 職員のスキルアップ等研修の場については、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、ICTの活用及び対面式の研修機会が広がり、質の高い知識や技術の取得に努めることが出来ました。
- (3) 感染症対策や災害対応について、行政との連携を強化すると共に、職員の感染予防や災害対策の意識を高めていくよう努めました。

2 重点課題と具体的な取組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ①利用者、家族の思いを尊重し、安心して過ごすことのできる生活の支援を行いました。
- ②利用者ニーズを把握し、一人一人の生活スタイルに合わせた支援・個別ケアの充実を図りました。
- ③利用者の普段の状況を把握し、体調等の管理に努めました。
- ④利用者の自主性を尊重し、機能訓練等への参加の声掛けをし、日常生活の維持を目指す支援をしました。
- ⑤利用者が自立した日常生活や社会生活を営むことが出来るよう支援しました。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ①各種研修会に参加することで知識や技術の習得に努めました。
- ②様々な研修を企画し、介護サービスの質の向上、人材の育成に努めました。

- ③医療事故等の防止に努め、看護力、介護力等の質の向上を図りました。
- ④訓練の実施計画に基づき、適正な訓練に努めました。
- ⑤当施設で実施する相談支援について、評価を行い、常に改善を図りました。

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ①行政機関、各種ネットワーク等と積極的に連携し、利用者の欠員補充に努めました。
- ②地域に愛され、信頼される開かれた施設づくりに努めました。
- ③利用者の人格と個性を尊重し寄り添い、信頼される施設づくりに努めました。
- ④機能訓練のより一層の充実に努め、安心して利用できる施設づくりに努めました。
- ⑤行政や事業者等と連携を図り、相談利用者にとって必要な社会資源の開発に努めました。

3 研修計画

(1) 施設内

- ア 年間研修計画（毎月1回）に基づき、ICTの活用等を活用し実施しました。
- イ 施設内研究の充実と施設内発表会に備え資料などの充実を図りました。

(2) 施設外

- ア 全国身障協職員研究大会（不参加）
- イ 中・四国身障協施設長研修会、事務管理研修会、支援職員研修大会、職員研修大会は対面形式、WEB等により参加しました。
- ウ 県内身障協施設長研修会、職員研修会、サービス管理責任者研修会は対面方式、WEB等により参加しました。
- エ 職種別専門研修会はWEB等により参加しました。
- オ 三恵会本部主催の会議、職員研修は対面方式やWEB等により参加しました。

4 行事予定

- 4月 ドライブお花見（実施月を9月、10月に変更実施）
三恵ふじ祭り（藤の花鑑賞会に変更、利用者と家族のみで実施）
- 5月 愛媛県障害者スポーツ大会（不参加）
- 8月 三恵夏祭り（夕涼み会に変更、利用者と家族のみで実施）
- 9・2月 防災訓練
（地震、土砂災害想定、火災夜間想定の実施月を12月、令和6年3月に変更実施）
- 12月 餅つき、クリスマス会、忘年会（利用者と職員で実施）
- 1月 新春ゲーム大会（中止）、鏡開き（利用者と職員で実施）
- 2月 節分豆まき、カラオケ大会（利用者と職員で実施）
- 4-12月 個別外出（中止）

5 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

- ア 東温市身障協助会との交流（中止）
- イ 川内保育園との交流（中止）
- ウ 重信中学との交流（中止）

- エ 東温市仲間づくり事業交流（実施）
- (2) ボランティア活動
 - ア 職員ボランティア活動
 - ・地区の春の井出清掃と秋の道づくり（不参加）
 - ・国道11号歩道生垣の清掃 隔月1回（実施）
 - イ ボランティアの受入れ（受入れなし）
- (3) 実習生の受入れ
 - ・河原医療福祉専門学校（受入れ）・聖カタリナ大学（依頼なし）・愛媛大学（依頼なし）
 - ・松山学院高等学校（依頼なし）

兒童福祉施設
十全保育園

令和5年度事業報告

1. 経営方針

令和5年度は、感染症も落ち着き、感染症が発生しても園内で最小限に収束し、保育内容も以前のような活動ができるようになってきました。改めて、引き続き感染予防・健康管理、同時にひとつひとつの行事の目的・ねらいを明確することを大切にして保育を進めてきました。

また、昨年5月に発生した他園で発生した誤嚥事故については、安全保育の必要性を痛感し、いつ、自園で起こるかもしれないという危険性を認識した1年でもありました。報告により職員間で、資料を回覧する、職員間で誤嚥防止策を確認する、新居浜市が主催したAED講習に職員全員が参加することで、事故防止・安全保育への意識を高めていきました。この事項は、令和6年度にも引き続き継続し、特に乳児入所受け入れ時の健康・食事摂取の状況確認等を細かく行うことにも力を注いでいきます。

保育については、各クラスの中で発達において気になる子が徐々に増えてきています。専門的な発達診断を元に、その児童にとって、どのような保育が望まれるのか、保護者の意向も大切にしながら、就学へと繋いでいきました。クラス運営・保育の質を問う保育を職員間で話し合い、保育を進めるという体制を整えました。

様々な問題が散在する社会の中で、今後も保育園として、どのように安全な保育を確保し、望まれる発達を保育の中で保障するかが、さらに問われる状況になってきています。

令和6年度も本来、目指すべき保育のあり方をもう一度確認しながら、さらに職員全員が知恵を出し合い、日々の保育が子ども達にとってより楽しく魅力的なものであり、保護者にも信頼をして頂ける保育、内容の質がさらに向上していくよう保育を進めていきたいと考えています。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1) 「誠実な福祉」の実践

① 子どもの健康・安全な生活を保障する。

- ・新型コロナウイルス・インフルエンザにおける感染予防のため、園児また職員の健康状況を正確に把握し、保護者にも情報を提供し、感染症が蔓延しないように配慮していった。

② 子どもの健やかな発達を目指した保育

- ・発達支援課の巡回相談から、就学相談につなげ、安心して就学できるようにしていった。サポートファイルを作成した。
- ・体に障がいがある児童のために、保育士自身が排泄時に児童が困らないような補助台を考え作る等、配慮した保育を進めることができた。
- ・発達面で気になる子は巡回相談で保護者に来園してもらい話し合い、専門家を交え、発達の課題を明確にしていった。

- ・ 保育園の行事の取り組み等により、園児ひとり一人の発達が促され、今までの保育の成果を確認していった。
- ・ 保護者の理解・協力のもと、行事を実施することができ、子どもの精神面における成長を保護者と共感できる場面を設定できた。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

① 職員の資質向上について

- ・ キャリアアップ研修では、計画的にリモート研修参加することができ、普段、研修できない専門的な内容を学ぶことができた。
- ・ 誤嚥事故を通して、保育士においては、食事の与え方、栄養士・調理員においては、食材の選択・調理方法を再確認し、事故防止に努めるようにした。

② 職員の業務内容について

- ・ それぞれの職種において、行事等で責任と当事者意識を重視し、業務を進めた。特に栄養士は、月1回の食育活動での保育士と連携が図れ、計画的に進めることができた。
- ・ 行事においては、連携・協力し合い、取り組むことができた。また、早めの取り組みで計画的に進めた。例年と同じ内容ではなく、今年度は違った内容をと、職員の創意工夫が活かされた。
- ・ クラスの状況、感染状況、欠席状況により、クラスを越えて、職員同士が助け合い、保育や業務を行う体制ができた。IPD の利用も広まり、保育記録の効率化や0歳児の突然死防止の記録の導入を進めることができた。

(3) 「堅実な経営」の実践

- ・ 児童数に対して、適切な保育士の配置を検討し、その中で、いかに中身が充実した保育が行えるかを意識した。
- ・ 消耗品の在庫管理を徹底し、無駄な備品の消費軽減に努めた。
- ・ 園舎の老朽化を把握し、今後の修繕計画を検討することができた。

3. 研修実績

(1) 施設内

- ・ 職員会・先任者会
- ・ 各係での話し合い(避難訓練・縦割り保育・食育活動・各行事等)

(2) 施設外

- ・ 保育協議会研修(園長・主任・乳児・幼児・障がい児・調理員)
- ・ キャリアアップ研修(リモート)
- ・ 私立園長会
- ・ 運営会

4. 行事实績(年間)

- 4月 健康健診
- 5月 野菜苗植え・種まき・歯科健診
- 6月 保育参観
- 7月 七夕会・プール開き・就学相談・夕涼み会ごっこ・(園内)・就学相談
- 8月 プール大会
- 9月 敬老の日にちなんでの葉書投函
- 10月 運動会・お祭り集会(園内)・交通安全教室
- 11月 マイントピア別子遠足(年長児)・七五三・職場訪問(消防署、西原郵便局)
歯科健診・巡回相談・遠足(乳児・幼児)
- 12月 火遊び防止教室・もちつき・クリスマス会・健康診断・巡回相談・保育参観
- 1月 新居浜ネットワーク「もうすぐ一年生」撮影
- 2月 節分・生活発表会(たのしいあつまり)・年長児お茶会
- 3月 交通安全教室
乳児遠足・お別れ遠足(園内)・お別れ会・卒園式

(毎月実施)身体測定・避難訓練 (随時)なかよしの日《異年齢交流》

5. 地域交流、ボランティア、実習生

- ・新居浜西高等学校
(交流はなかったが、学生が、手作りおもちゃを作って持ってきてくれました。)
- ・十全看護学校(小児看護学校実習)
- ・体験学習(西中・南中)

特別養護老人ホーム
ハートランド三恵

令和5年度 事業報告

1, 経営方針

コロナ禍での入所者・利用者の使用制限を実施せざるを得ない状況にて入所・短期入所及びデイサービスの稼働低下の影響を約3年間受け継ぎました。令和5年度の最大目標は感染症が落ち着く状況下での全部署での稼働率回復であった。

事業年度末を迎え運営結果として、各業種とも当初の目標稼働率は未達となりましたが入所・短期入所では対前年約4%増となりましたが、デイサービスでは1・14%減で残念な結果で終わりました、これは当初方針にあった「他事業所にはない運営」が十分でなかったと判断し、今後より積極的で具体的な事業所運営が必要と強く感じ、以後運営してまいります。

居宅介護支援事業所の運営に関しても、外向きのアプローチが弱く積極性に欠けた一年であったと反省しています。居宅の対外活動は在宅系事業の生命線でもありますのでよりしっかりとした日々の行動を実施して参ります。

2, 重点課題、具体的な取り組み

(1) 誠実な福祉

- ・基本的感染対策の徹底 ～～ 可能な限りでの実施は達成できた。
- ・確実な看護・介護の実施 ～ 看護・介護の連携が向上し入院者減を達成した。

(2) 確実な知識と技術

- ・無資格介護職員の研修 ～～ 全介護職員の資格習得ができた。
- ・職場内研修の充実 ～～～ 一部内容変更があるも予定どおり達成できた。

(3) 堅実な経営

- ・当初予算の必達 ～～～ 事業収入増・事業支出減・収支差額（損益）増
- ・早期の空床利用 ～～～ 十分に達成できなかった。今後の大きな課題です。

3, 研修計画

(1) 施設内研修

- ・部署別研究発表 ～～～ 全体会開催時に実施、達成できた。
- ・外部講師による勉強会 ～ 2回実施出来た（AED研修・適正なオムツ使用）

(2) 施設外研修

- ・老施協主催研修会への参加 ～ コロナ感染状況判断により一部実施

4, 行事予定

施設・・・3行事のみ実施できた。

デイサービス・・・1月の初釜のみ不実施、他行事は達成した。

5, 地域交流、ボランティア、実習生

地域交流・・・太鼓台訪問実施、夏祭り・敬老会中止

ボランティア・・・地域清掃中止、ワークキャンプ短縮実施

実習生受け入れ・・・十全看護学校及び新居浜南高等学校は実施

老人保健施設
リハビリステーション三恵荘

令和5年度 事業報告

リハビリステーション三恵荘

1. 運営の内容

令和5年度は稼働率アップ、事業収入の増大を第1目標とし、職員間で連携を図りながら取り組みを行いましたが、結果、目標稼働率には遠く及ばず前年度と比較し入所部門は延利用者数811名減、通所部門では158名減という結果となりました。施設類型としては年間を通して「強化型」「超強化型」の算定となった為、一定の収益確保はできましたが当初予算から大幅な収益減という結果となりました。

利用者処遇につきましては面会制限の緩和や施設行事についても感染状況を確認しながら利用者楽しく過ごしていただけるよう状況に応じて工夫を行いました。

施設整備に関しましては経営状況から先延ばしとなっていた給湯設備の更新工事を始め施設老朽化による不具合の修繕、機器の購入など優先度の高いものから実施いたしました。

令和5年度においては収益、人員確保ともに課題の残る1年となりました。次年度は改善に向け職員のスキルアップ、営業活動の強化などに力を入れていきたいと考えています。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 誠実な福祉

- ① 基本的な感染対策の継続にて安定的なサービスの提供を行う。
⇒施設内での感染症流行は防ぐことができました。
- ② 「個別対応」に重点を置き、利用者が満足度の高いケアプラン、リハビリ計画等となるよう多職種連携にて見直しサービスを提供していく。
⇒利用者、家族への適宜の報告にてニーズに沿ったサービスの提供に努めました。

(2) 確実な知識と技術

- ① 施設外研修への参加を促進し職員の知識と技術の向上を図る。
⇒感染状況に応じての研修会への参加や ZOOM を活用しオンラインでの研修参加を行いました。
- ② 研修等にて習得した知識を施設内勉強会にて情報共有し職員レベルの底上げを図る。
⇒定期職員会での情報の共有を行いました。

(3) 堅実な経営

- ① 稼働状況、収入状況に応じて人材を補充し確実な収益を確保する。

② 安定的に加算を算定し収益増大に努める。

⇒年間を通し「強化型」「超強化型」を算定することができました。

3. 研修計画

(1) 施設内研修

法人による新人研修、研究発表研修、定期的な自主研修（各職種分担）

(2) 施設外研修

愛媛県老人保健施設協議会各種研修会、老人保健施設全国大会、通所リハビリテーション研修会、ユマニチュード基礎研修等

4. 行事予定

⇒入所、通所リハビリテーションともに市内の感染状況に応じて一部は中止、可能な行事については感染対策を行いながら実施いたしました。

5. 地域交流、実習生、ボランティア

①地域交流

地元太鼓台の訪問、大生院・中萩校区文化祭、ふれあい夏祭り

ピンピンきらり体操、大生院地域食堂参加

⇒感染対策にて一部未実施。

②ボランティア受け入れ

中高生ワークキャンプ他

⇒市内の感染状況により中止。

③ 実習生の受け入れ

学校等：新居浜南高等学校、十全医療学院

⇒感染対策を実施して受け入れ。

老人保健施設
希望の館

令和5年度 事業報告

老人保健施設 希望の館

1. 経営方針

令和5年度事業計画で掲げた「革新 ～続・感染対策と ICT 化～」 「数値目標」について取り組んだ結果を報告します。

(1) 入所部門（入所・短期）

目標稼働率 93.9%（補正後）に対し、実績 93.8%となりました。慢性的な待機者不足から下半期の稼働（上半期 95%・下半期 92.6%）が低下し、目標稼働率を下回る結果となりました。令和5年度は感染症によるクラスター発生が0件と、感染症対応については一定以上の評価ができるものと考えています。

超強化型での算定については、ベッド回転率で苦慮した7～8月・1～2月に類型を落とし、9月・3月を除いた10ヶ月算定をおこなっています。

LIFE 加算の栄養マネジメント強化加算・リハビリマネジメント計画書情報提供加算・科学的介護推進体制加算については、12ヶ月通しての算定を達成することができました。令和5年度から開始を予定しておりました褥瘡マネジメント加算・排せつ支援加算については、5月から開始し11ヶ月算定をおこなっています。

(2) 在宅部門（居宅・通所リハビリテーション）

居宅介護支援事業所については、目標件数 134.3 件（補正後）に対し、実績 133 件となりました。4 名体制から 5 名体制への増員が予定より大幅に遅れたことが要因と考えられており、令和6年度は166件の目標達成に向けて取り組んでいきます。

通所リハビリテーション事業所については、35 名定員に対して目標稼働率 71%（補正後 24.9 名）を目標としておりましたが、冬季の落ち込みが影響し、実績 70.4%（24.6 名）と、こちらも目標稼働率を下回る結果となりました。3 事業とも目標稼働率を下回ることとなった結果を重く受け止め、次年度に繋げていきます。

LIFE 加算のリハビリテーションマネジメント加算・科学的介護推進体制加算については12ヶ月通しての算定を達成することができました。令和5年度から開始を予定しておりました栄養アセスメント加算については、9 月から開始し7 ヶ月算定をおこなっています。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ・高齢者虐待防止に向けた職員研修の実施 → 年3回実施
- ・感染、災害が発生した場合の業務継続に向けた取り組み → R6.3.1～運用開始
- ・LIFE（科学的介護情報システム）への取り組みによる介護サービスの質の向上
→ LIFE については予定通り算定・フィードバックの活用は今後の課題

(2) 「確実な知識と技術」の習得

- ・さらなる在宅志向に向けた在宅復帰支援の継続と地域貢献事業の実施
→ 令和5年度の在宅復帰 24 名・看取り 22 名

- ・オンライン研修や外部講師による職員研修の充実
 - 予定通り実施（オンライン研修・歯科衛生士による職員研修等）
- ・認知症ケア関連資格の取得・リーダーの養成（認知症介護実践者研修他）
 - 認知症実践リーダー研修2名・認知症実践者研修2名受講済み

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ・LIFE加算の算定、ICT導入によるペーパーレス化の促進
 - LIFE加算は予定通り算定・介護ソフトを活用した電子供覧化実施
- ・職員配置の見直しによる人件費の削減
 - 継続
- ・2024年度制度改正（医療・介護同時改定）への準備
 - 新規加算対応に向けた体制作りの継続

3. 研修

- (1) 施設内 → 予定通り実施
- (2) 施設外 → 一部を除いて予定通り実施

4. 行事計画（年間）→ 感染対策をとりながら実施・やかた祭りでは一部家族参加

5. ボランティア・実習生

- (1) ボランティア受入状況 → 車椅子清掃ボランティアのみ限定的に実施
- (2) 実習生の受入状況 → 予定通り実施

通所介護事業所
おいでんや

令和5年度 事業報告

通所介護事業所 おいでんや

経営方針

三恵会創立50周年にあたり、法人としての経営方針や行動指針、「乳幼児から障がいのある方、高齢者まで支援する」「地域の皆さまのお役に立てるよう努力する」を念頭に置いて日々の支援に当たりました。

① 目配り・気配り・心配り については、職員が先回りして手を貸しすぎた場面もありましたが、声を掛け合い、利用者様の残存機能を見極める努力をしてまいりました。② 利用者様⇄職員 職員⇄職員 部署⇄部署 の支えあい については、部署として支えてもらう事が多かった1年だったように思います。担当部署、職種関係なく支えていただきありがとうございました。支えてもらうばかりでなく、今度は支える側にも回りたくと思っていますので、今後も引き続きお願いしたいと思います。③ 利用者の社会生活 については、当初の計画通り、気候の良い春と秋に個別外出を実施し、2回とも利用者の半数にあたる約25名ほどの参加がありました。利用者の希望としては「おいしい物を食べに行きたい」「ゆっくり衣服を見て買いたい」「趣味の用品を買に行きたい」「きれいな景色が見たい」「大きな公園を散歩したい」が多くを占めており、参加した利用者からは「楽しかった」「嬉しかった」「気分が晴れた」などのお声をいただき「また連れて行ってね」と喜んでいただきました。利用者様皆さんの気分転換(心の健康)、意欲の向上に繋がったものと考えます。

重点課題

1) 稼働率の向上

- ① 数値目標 … 1日あたり23名の利用を目指していましたが、結果は18.8名でした。しかし、年度初めの4月は平均15名ほどの利用に留まっていたましたが、毎月平均4名ほどの新規利用者を獲得でき、徐々に上向きになりました。
- ② 月2回の居宅介護支援事業所訪問を継続して行い、ケアマネさんとの顔つなぎの成果で多くの新規利用者の獲得に繋がったと考えます。

2) 職員の資質向上 ・ スキルアップ

利用者・家族のニーズも多様化し、時には実現困難な要望もありましたが、職員間でいろいろな意見や持っている知識を出し合い、試行錯誤しながら進めていきました。

3) 記録の充実

看護面を中心に、細かいところまで記録に残すことができましたと思います。

研修計画

1) 施設内研修

積極的に職員全体会に参加できました。AEDの研修にも参加させていただきました。

2) 施設外研修

部署内から1名の職員が認知症実践者研修を受講させていただきました。

年間行事予定

4月	5月	6月	7月
・お花見 (ドライブ含) ・個別外出	・ドライブ ・個別外出	・菖蒲見物	・夏まつり(合) ・七夕まつり ・社会見学
8月	9月	10月	11月
・社会見学	・ドライブ ・避難訓練	・いきいきフェスティバル ・太鼓台見物 ・個別外出	・校区文化祭 ・紅葉見物 ・個別外出
12月	1月	2月	3月
・もちつき(合) ・クリスマス創作 ・忘年会	・初詣 ・書初め	・節分 ・梅見物	・ひな祭り ・避難訓練 ・カラオケ大会(合)

5月に新型コロナの規制が緩和され、行事も徐々に再開できました。

多機能型事業所
わくわくクラブ

令和5年度 事業報告

多機能型事業所わくわくクラブ

1. 経営方針

多機能型事業所わくわくクラブは、障害の重度化や高齢化、様々な障害特性に応じサービス利用のニーズが多様化しています。障害を持たれた方が、生まれ育った地域で生き生きと地域生活を継続し、社会参加を果たしていけるようサービスの充実に努めて参りました。障害の重度化・高齢化に向けて職員の介護技術・資質向上に励み、ニーズに沿った支援内容の提供はもとより、利用者及び家族の地域生活継続への想いに細やかに寄り添える事業所、選択される事業所を目指してきました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 稼働率の向上

生活介護事業

・一日20名以上の利用を目標とし、ご利用者様・ご家族及び関係機関とのコミュニケーションを大切に、安定的利用に繋がられるよう努めて参りましたが、一日平均15.3名と目標数値には届きませんでした。新規利用者については、R6年3月に放課後等デイサービスを利用されてきた利用者1名が生活介護事業所を継続して利用して頂けるようになりました。

放課後等デイサービス

・相談支援専門員・他事業所との連携、また保護者同士の繋がりを軸に新規利用者の受け入れを強化し、積極的に新規利用者の受け入れを行いました。1日平均6.9名と目標には届きませんでした。

(2) 支援内容の充実

① 重度化・高齢化への対応

・専門知識の習得に励み、職員間での伝達を積極的に行うことで、全ての職員が意識を高く持ち、幅広いニーズに対応できる環境を整えて参りました。
・日々の状態変化への気付きを大切に、職員間での情報共有を大切にし、重度化・高齢化に対する対応力を身に付けられるよう努めて参りました。

② 多様な活動の場の提供

・生活介護事業の枠にとらわれず、希望者には業者請負作業を安定して提供できるように努め、働く喜びを実感して頂けるよう工賃アップを目指して参りました。また活動内容の充実を図り、出来る喜びを感じて頂けるよう努めると共に、行事内容を工夫し「また行きたい。」と感じて頂けるよう努めて参りました。放課後等デイサービスにおいても、個々の才能を最大限に引き出し「表現できる喜び」を体験できるプログラムの提供に努めて参りました。

③ 社会参加の促進

・散歩・清掃ウォーキングでの美化活動を通じて地域交流の促進に努めると共に、作品展への出品・販売など様々な地域行事に参加する事で、利用者が社会参加出来るよう努めて参りました。また、作業を通じて様々な人・企業との繋がりを大切に、賃金を頂くまでの成り立ち、働く事の意義を感じて頂きました。

④ 感染症対策の徹底

新型コロナウイルスをはじめインフルエンザ等の感染症予防対策及び、自然災害に備えた災害対策への取り組みを徹底し、安全で安心できる環境を整えて参りました。

(3) ネットワークづくり

生活介護事業所においては家族交流会を5年ぶりに開催し、利用者・家族・職員間での情報交換や連携を図り、相互理解を深める事が出来ました。また、利用者のより豊かな社会参加実現にむけ、関係機関との連携を図ってまいりました。

3. 研修計画

(1) 施設内研修

- ・職員全体会・フロア会(月1回)
- ・施設外研修で学んだ内容を、事業所内伝達・共有に努め、必要な知識習得やスキルアップを目指しました。

(2) 施設外研修

- ・福祉施設職員として資格取得や毎日の支援の根拠となる知識・技術の習得に努めました。

4. 行事計画

4月	5月	6月	7月
<ul style="list-style-type: none"> ・お花見 ・防災センター見学 ・放課後等デイサービス新規利用者受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・テイクアウト行事 ・菖蒲見学 ・医師の健診 ・おやつ作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の森散策 ・干支作品製作 ・買い物練習 ・じゃがいも販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・七夕行事 ・福祉の集い参加 ・テイクアウト行事
8月	9月	10月	11月
<ul style="list-style-type: none"> ・全館合同スタンプラリー ・おやつ作り ・医師の健診 ・買い物練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・マリンパーク散策 ・消防訓練 ・敬老の日の交流行事 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物練習 ・地方祭 ・公園外出 ・さつまいも販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所交流 ・買い物練習 ・医師の健診
12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ・イオン作品展 ・クリスマス会 	<ul style="list-style-type: none"> ・初詣 ・書初め ・ドライブ ・レクリエーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・節分 ・ドライブ ・レクリエーション ・医師の健診 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひな祭り ・プチカラオケ大会 ・消防訓練 ・家族交流会 ・お疲れさま会

※毎月、清掃ウォーキング・体育館での運動・図書館利用・他事業所との交流等も行う。

地域子育て支援事業(ひろば型)
にこちゃんパーク

令和5年度事業報告

地域子育て支援拠点事業 にこちゃんパーク

1. 経営方針

昨年は、三恵会設立50周年の節目を迎えました。感謝の心を常に持ち、尚一層の努力を重ねて、信頼される施設として、安心して利用して頂けるよう努めました。

(1) 交流の場と居場所の提供

妊娠期の方や、概ね3才未満の子育て中の親子が気軽に集い、親子同士の出会いと交流を通して、子ども達が自由に遊んだり、家庭的な雰囲気の中で、安心して過ごせる場を提供しました。

(2) 子育て相談

育児に対する不安感・負担感などを理解し、身近な相談相手として、子育ての不安や悩みが少しでも軽減できるよう、支援しました。

(3) 情報の共有

市役所の子育て支援課や保健センター（すまいるステーション）、他の子育て支援拠点施設との連絡会を通して、子育てに関する情報の共有に努めました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

- ・週4日、月・火・木・金曜日（祝日、お盆、地方祭、年末年始を除く）を開所しました。
- ・子育て中の親子の出会いと仲間づくりの援助を行いました。
- ・安心して遊んだり、自由に、かかわり合える場を提供しました。
- ・施設内の通所介護事業所・多機能型事業所との館内交流を図りました。

(2) 子育て等に関する相談、援助の実施

- ・利用者の悩みに寄り添い、話に耳を傾けて、受容的・共感的態度で接しました。
- ・子育ての悩みを理解し、その軽減や解決に向けた方法を共に考えました。
- ・すまいるステーションを紹介したり、子育て支援課と連携をとり、必要な情報を提供しました。
- ・子育て親子への対応に十分配慮し、知り得た個人情報について守秘・保護に努めました。

(3) 地域の子育て関連情報の提供

- ・毎月の行事予定（にこちゃんだより）を発行し、配布しました。
- ・市内の子育て支援拠点施設や子育て支援センター、児童館や児童センター、子育てサークルなどの予定表を掲示したり、保健センターや子育て支援課からのプリントを配布し、さまざまな地域情報をお知らせしました。
- ・子育てに関する新聞記事や、地域の行事、講演会などの紹介をしました。
- ・子育て応援ブックや、子育て応援パスポートなどを説明し、配布しました。

(4) 子育て・子育て支援に関する講習等の実施

- ・子育て中の親子のニーズを把握して、講習を計画し、実施しました。
(すまいるステーション、プチ出前講座)
- ・ボランティアによる活動を計画し、定期的に来て頂き、実施しました。
(お話会・親子でヨガ・ハーバリウム作りなど)
- ・季節感のある、おもちゃ作りやあそびを紹介し、実施しました。

- ・令和 5 年度からの新たな取り組みとして、助産師さんによる相談会を毎月実施しました。
- ・新型コロナウイルス流行前のイベント、木の球プールを再開しました。
- ・誕生会で誕生児の手形と写真を撮り、手作りの誕生カードを作成、記念にお渡ししました。
- ・身体測定（身長・体重）を行い、成長の喜びを共有しました。

(5) 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策

- ・子育て中の親子が安全に過ごせるよう、利用者・職員共に、手指消毒・検温・マスクの着用を徹底しました。
- ・利用者人数の制限（電話での予約が必要）を行って、密着・密接を減らしたり、室内の換気・加湿に気を付けました。（空間除菌脱臭機使用）
- ・施設内での食事は禁止とし、水分補給のお茶は、各自持参して頂きました。
- ・遊具・玩具や室内の消毒・除菌をこまめに実施しました。（オゾン式保管庫など使用）

(6) 広報活動

- ・毎月の行事予定や活動内容など、Instagramや三恵会ホームページのブログに掲載しました。
- ・予定表（にこちゃんだより）を市役所・十全総合病院・川東の公民館4ヶ所に置かせていただきました。
- ・すまいるステーションとの連携により、事業所を紹介しました。
- ・保健センター（5カ月児健康相談）にて、拠点周知啓発活動を行いました。

3. 研修報告

(1) 施設内研修

- ・職員全体会
職員の資質向上に向けてコミュニティハウス三恵での職員研修に参加しました。

(2) 施設外研修

- ・新居浜市地域子育て支援拠点事業の連絡会に参加しました。

4. 行事報告

- ・毎月実施…○ボランティアによるお話し会、親子でヨガ、ハーバリウム作り
○お誕生会（誕生カード作成）、身体測定（成長記録カード作成）
助産師による相談会（妊娠中から産後、育児の事など）
作って遊ぼう（工作）、カレンダー作り
- ・随時実施…○プチ出前講座（すまいるステーション）、木の球プール（大五木材）
館内の高齢者・障がい者との交流など

★子育て相談…保育士・理学療法士による育児相談を行いました。

★子育て応援フェスタ in いはまに関する検討会に参加しました。

主な行事内容

	つくって遊ぼう	誕生会・お話会(回転木馬)・ハーバリウム作り
	カレンダー作り	親子でヨガ・身体測定・助産師さんによる相談会
4月	かぶと	手遊び歌・絵本・エプロンシアター・手袋シアター・紙芝居
	こいのぼり (5月)	パネルシアター・折り紙・お絵描き・シール貼り
5月	びっくりへびくん	絵本・手あそび歌・手ぶくろシアター・紙芝居
	あじさい&カタツムリ (6月)	しゃぼん玉あそび・折り紙・お絵描き・リズムあそび 切り紙
6月	あじさいの花時計	★すまいるステーションプチ出前講座(歯の話)・お絵描き
	アサガオ (7月)	折り紙・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター 手あそび歌・絵本・新聞あそび
7月	七夕笹飾り	七夕飾りの作成・七夕まつり・エプロンシアター
	ひまわり (8月)	手あそび歌・お絵描き・パネルシアター・絵本・紙芝居 折り紙・ふれあいあそび
8月	コロコロ水槽	紙芝居・絵本・パネルシアター・うちわシアター
	トンボ&コスモス (9月)	手あそび歌・シール貼り・切り紙・しゃぼん玉あそび ペープサート・ベビー指圧★館内の夏祭り
9月	とことこアンパンマン	絵本・手あそび歌・紙芝居・パネルシアター・折り紙
	ブドウ (10月)	手袋シアター・シール貼り・ミニうちわシアター ★木の球プール★すまいるステーションプチ出前講座(食物 アレルギーについて)
10月	太鼓台	手あそび歌・絵本・紙芝居・パネルシアター・手袋シアター
	モミジ (11月)	折り紙・太鼓あそび・風船あそび★保健センター(5カ月児 健康相談)での拠点周知啓発活動
11月	紙パックフリスビー	エプロンシアター・絵本・手あそび歌・パネルシアター
	クリスマスリース (12月)	手袋シアター・シール貼り・折り紙・どんぐり木の実あそび 紙芝居・親子あそび歌★保健センター(5カ月児健康相談) での拠点周知啓発活動
12月	クリスマスツリー	手あそび歌・絵本・ペーパープレートシアター・シール貼り
	新年開運リース (1月)	紙芝居・パネルシアター・折り紙・クリスマス会 楽器あそび・お絵描き・サンタ&トナカイのパペット人形 スタンプあそび ★保健センター(5カ月児健康相談)での拠点周知啓発活動
1月	UFO こま	ペープサート・絵本・紙芝居・手あそび歌・パネルシアター
	節分の扇かざり (2月)	伝承あそび・お絵描き・親子ふれあい遊び・折り紙 シール貼り
2月	紙コップの雛飾り	手あそび歌・絵本・リズムあそび・手袋シアター
	お雛さま (3月)	パネルシアター・お絵描き・折り紙・紙芝居
3月	ペットボトルマラカス	絵本・手袋シアター・手あそび歌・ハンカチあそび
	桜 (4月)	紙芝居・パネルシアター・折り紙・お絵描き・楽器あそび

ユニット型地域密着型老人福祉施設
うみかぜ

1. 経営方針

今年度はうみかぜの特性であるユニットケアを目標に掲げ、ご利用者の生活歴及びニーズを正確に把握。科学的介護に基づいた個別ケアを推進いたしました。

そのためにも、並行して働きやすい職場環境の構築を実施。具体的には、職員配置を柔軟に対応。業務が多忙と想定される時間帯に職員を多く配置する対応をいたしました。また、各ユニットに看護職員を配置。介護看護の業務負担軽減のみならず、職員同士の関りも密になったことから、信頼関係の構築の礎になったと判断しております。

これらのことを取りまとめ、定期的にユニット会、リーダー会を開催する予定でしたが、毎月の開催は困難でした。今後、開催の頻度を上げる必要があります。

また、その実践において、職員の知識・意識向上が必要であることから、多く研修を受講。排泄ケア、栄養ケア及び褥瘡マネジメントといった医療介護の研修に加えて、虐待防止や権利擁護といった、ソーシャルワーク面でも研修を実施いたしました。更にユニットリーダー研修にも参加いたしました。

これらの研修内容を全職種に浸透させることで、より専門的なケアを展開。ご利用者の身体的な状況改善の成果を実感しております。

ただ、経営面においては、実質稼働率 96.3%（ご利用者の年間施設内お看取り 5 件の影響による）、ショート稼働率 77.8%は、コロナクラスター長期化によるものであり、目標達成にはいたりませんでした。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

①令和5年2月14日～3月8日に新型コロナウイルス感染症クラスターが発生してしまいました。そこで、終息後すぐ、マニュアルの簡略化や見直しを実施。各職員に周知徹底いたしました。

②適切な防災訓練は実施いたしました。

③毎月、カンファレンスを開催。その際に LIFE の評価を実施。PDCA サイクルを実施。エビデンスに基づいた支援を展開してまいりました。

また、科学的介護をより進めるためにも、研修は必要不可欠でした。具体的には、市内の歯科医師による口腔衛生の研修、または精神科医による認知症の基礎疾患の研修、機能訓練の研修といった科学的介護の加算に係る研修には参加いたしました。

更に、運営推進会議でも科学的介護の意義について報告。地域の方々に情報発信すると同時に貴重な意見をいただき、施設運営に活かさせていただきました。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ①各ユニットの職員配置を見直し、スーパービジョンがしやすい環境にいたしました。また、認知症の研修や排せつケア及び褥瘡ケアといった介護研修に加え、若手職員が数件の看取りを経験したことで、全人的な介護をより意識して実践することができました。
- ②認知症介護基礎研修や認知症研修には参加。病態や解剖生理から始まりに内服や検査についても学習。並行して、疾患だけでなく、利用者全体をみる視点も学習いたしました。
- ③ユニットリーダー研修、喀痰吸引研修に参加。介護業務への意欲は向上いたしました。

(3) 「堅実な経営」

- ①目標稼働率の達成には至らず。未達成の要因を検証し、次年度達成に繋がります。
- ②毎月の光熱費使用状況報告を継続し、節電などの節約に繋げることができました。
- ③施設経営会で、光熱水費状況を報告。無駄について確認しております。

3. 研修

(1) 施設内

- ・介護倫理 ・事故防止 (2回) ・褥瘡予防 ・身体拘束
- ・虐待防止 (2回) ・感染症対策 (2回) ・認知症について (2回)
- ・看取りについて

(2) 施設外

- ・愛媛県地域密着型サービス協会主催 … ターミナルケア
- ・愛媛県地域密着型サービス協会主催 … 認知症の基礎疾患
- ・ユニットリーダー研修
- ・職員教育、ハラスメント研修
- ・排せつに関する LIFE の活用
- ・BCP 防災研修

4. 行事

4月	花見	10月	太鼓台訪問
5月	ドライブ	11月	防火訓練
6月	防火防災避難訓練	12月	クリスマス会
7月	七夕	1月	初詣
8月	バーベキュー	2月	節分
9月	敬老会	3月	ひな祭り

〈毎月の共通行事〉 ユニット活動 (誕生会、おやつづくり、個別外出)、生け花、移動図書館)

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

- ・運営推進会議 (施設開催 6回)

グループホーム
かがやき

令和5年度事業報告

1. 経営方針

令和5年度かがやきでは、施設内研修やカンファレンス等を通して、職員の認知症への理解を深め、ご利用者に寄り添った介護、ご利用者のQOLの向上に努めました。コロナ禍であることもあり、外部と連携した会議や研修を行う事はあまりできませんでした。他のグループホームでの虐待問題あり、施設内で虐待予防対策の勉強会や検討の場を設け、ユニット内では、ご利用者個々の対応を話し合う等を実践し、認知症介護の楽しさやご利用者と共に生きる意義について、カンファレンスをいたしました。

施設経営におきましては、ご利用者の入院等が要因となり、目標稼働率99%に対し、94.9%のマイナス実績となり目標を達成できませんでした。また、光熱水費や物価高騰の影響により大幅な収支差額減となり、経営面で厳しい1年となりました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ①感染対策に留意するも、コロナクラスターが発生となる。早急に医療機関と連携し、早急の終息宣言となった
- ②事業継続計画を必要に応じ、改訂更新を実施。適切な防火訓練や感染訓練を行い、事業継続計画の勉強会を開催し、職員の理解を深めた
- ③赤外線センサーやセンサーマット等を活用しながら転倒防止に努めた。また、施設内研修を通じて認知症や疾病への理解を深め、ご利用者に寄り添った介護に努めた

(2) 「確実な知識と技術」の習得

- ①あまり多くの研修に参加することはできなかったが、積極的に施設内での研修や会議を実施した
- ②認知症介護基礎研修や認知症研修を受講することはできなかった
- ③適宜カンファレンスを実施、ご利用者個々の情報を共有し職員間の連携に繋げ、事故の防止に努めた

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ①実質稼働率94.9%の為収入は大幅に減少、次年度は新規入所待機期間の減少と共に収入の増加を目指す
- ②節電や節水等、会議等を通して方法を相談、共有した
- ③全体会等を通して職員間へ節約の意識を持つよう啓発した

3. 研修

(1) 施設内（法人内）

- ・介護施設の倫理・介護の仕事 ・事故防止研修（2回） ・高齢者のスキンケア
- ・認知症ケアと身体拘束 ・新型コロナウイルス感染症に対する感染対策
- ・身体拘束廃止の研修 ・個人情報保護及びプライバシー保護に関する研修
- ・ターミナルケア ・緊急時の対応 ・虐待防止対策 ・認知症ケア

(2) 施設外

- ・認知症の人の内的世界に寄り添って
- ・行動観察方式（AOS）活用研修
- ・地域密着型サービス協会研修
 - ・これからの with コロナ
 - ・認知症の基礎疾患
 - ・ターミナルケア

4. 行事

4月	花見ドライブ	花見	10月	太鼓台訪問	ドライブ（太鼓台）
5月	ドライブ（薔薇）		11月	紅葉見物	かがやきカフェ
6月	ドライブ（紫陽花）		12月	紅葉見物	クリスマス会
7月	七夕	スイカ割り	1月	初詣	お茶会
9月	敬老会		2月	節分	ドライブ
			3月	ひな祭り	ドライブ

<毎月の共通行事> ユニット活動（誕生日会・おやつ作り・個別外出）生け花

5. 地域交流

- ・太鼓台訪問
- ・多喜浜校区自治会との交流（文化祭参加）
- ・運営推進会議（施設開催6回）

兒童福祉施設
中萩保育園

令和5年度 事業報告

1、経営方針

令和5年度は、三恵会設立50周年の年に新園舎が完成、大きな節目の年になりました。整った環境の下、子ども達が安全で安心して過ごせる居場所としての保育園の役割を考え、様々な学びや体験ができる環境づくりを行いました。また、4月1日に「子ども基本法」が施行されたことを踏まえ、改めて職員間で「子どもの人権」「子どもの権利」について確認し合い、「みんなで子育て」を目標に、健全育成と保護者支援に努めました。今後も子ども・保護者・職員が共に育ち合う保育園を目指したいと思います。

5月8日から新型コロナウイルス感染症の取り扱いが5類となり少しずつ以前のような生活が取り戻せつつある中、季節を問わず様々な感染症の拡大が確認されました。今後もあらゆる感染症拡大を防ぐため、地域内での発生状況、流行状況を把握することで早期対応に繋げていきたいと思います。

また、5年度は、不適切な保育や食に関しての事故等が社会的に大きな問題となり、保育園に対しての信頼が問われることになりました。乳幼児期は生涯にわたる人間形成（生きる力）の基礎を培う大切な時期です。今後も職員間で協働を図り「保育の質の向上」「食の安全」に努め、子ども達が安全や人権を守られた環境の中で、自己を十分に発揮し、のびのびと生活できるようにしていきたいと思います。

4月よりICT化を導入し業務の軽減を図っています。今後も働きやすい環境を整備しながら風通しの良い保育園を目指します。また、人口減少、物価高騰等、社会情勢を踏まえ、先を見据えた運営に取り組んでいきたいと思います。

2、重点課題と具体的な取り組み

(1)「誠実な福祉」の実践

①子どもの健康・安全な生活を保障する

- ・朝の受け入れ時の視診、検温などの健康観察を行い、元気に生活できるように努めた。
- ・毎日、保育室や廊下の消毒を行い、感染症予防に努めた。
- ・インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症対策に努め、手洗い、室内換気の徹底に努めた。
- ・安全対策委員を設置、避難訓練や不審者侵入を想定した訓練を行い、危機管理意識を持つように努めた。
- ・ヒヤリハットを細かくとらえ記入することができた。今後も生活の場を整備し、子どもの動きを想定することで安全保育に繋げていきたい。

②子どもの健やかな発達を目指した保育

- ・子どもの気持ちに共感することで子ども達が安心して生活ができるよう環境を整備した。今後も乳幼児期の成長発達を理解し、自己肯定感が育つようにしていきたい。
- ・基本的な生活習慣の確立では、個人差を踏まえその子に合ったペースで成長できるよう丁寧な保育に心がけた。今後も焦らず一人一人を大切に関わっていききたい。
- ・戸外遊び（雲梯、鉄棒等）を通して体力づくりに取り組んできた。
- ・児童センターやキラキラ公園まで散歩に行き、自然に触れたり、散歩を通して交通ルールを身に付けたりできるよう取り組んでいる。今後も心身ともに健やかに成長できるよう保育していきたい。

③専門機関、教育機関、他施設との連携

- ・年2回、十全総合病院小児科（長谷川 Dr）、藤田歯科クリニック（藤田 Dr）による検診を受けた。その結果を保護者に伝え、早期治療に繋げている。
- ・発達支援課による年長児の発音検査を行い、早期発見早期治療に繋げている。
- ・発達支援課による巡回相談、就学相談を受け、支援を必要とする子どもが無理なく集団で生活ができ、クラスの一員として協調できるように保育している。
- ・中萩小学校での幼保小連絡協議会への参加。情報交換を行った。就学に向けての引き継ぎ、支援を必要とする子のサポートファイル作成等、小学校との連携を取っている。子ども達が小学校生活に期待を持って就学できるよう今後も交流していきたい。
*各機関との連携は今後も大切にしていきたい。
- ・上部児童センター運営協議会に参加、子どもを中心に地域との交流を深め、健全育成に係ることができるよう意見交換を行った。
- ・老人施設むつみの家と連携を取り災害時の協力体制を取っている。

④危機管理対策

- ・毎月、各災害を想定しながら避難訓練を実施。問題点、反省点を職員間で話し合い、子ども達が安全に避難できるよう取り組んでいる。5年度は施設強化加算の申請を行い避難車を購入した。また、保護者が防災マニュアルを閲覧できるよう玄関に配置している。掲示板に避難経路を掲示し、保護者にも知らせている。
- ・アルソックに依頼し防犯対策に努めている。
*今後も職員間で危機管理について話し合い、確認することで、防災、防犯意識を高めていきたい。

(2)「確実な知識と技術」の修得

①職員の資質向上

- ・保育協議会主催の研修、日本保育協会主催の研修、三恵会主催の研修などに参加し資質向上に努めた。また、保育協議会主催のキャリアアップ研修を受け知識を深めることに繋げた。

・自己評価をすることで自分自身の反省評価を行い、子どもの活動内容や結果だけでなく、子どもの育ちや意欲に繋がる保育を目指してきた。今後も職員間での話し合い、共通理解をすることで保育の質の向上に繋げていきたい。

*日々いろいろなことに直面しながらも、職員一人一人は前向きに取り組み一生懸命頑張っている。

*今後も研修、経験を重ねながら専門性を身につけ、また、社会人としても成長していけるよう取り組んでいきたい。

②専門性の充実

・保育園で働く全ての人が子どもに対しての人的環境である。言葉遣い、身だしなみ、行動等、子どもの成長に与える影響は大きい。職員一人一人が丁寧に子ども達に関わり保育するよう心がけた。

・全体計画に基づいて各クラス年指導計画、月指導計画、週（日）指導計画、個人別月指導計画、個人別週（日）指導計画、各行事の指導計画を立て、ねらいをもって保育に取り組んだ。

・健康観察、感染症予防についての情報提供などを行った。また、職員に嘔吐物処理の仕方について講習を行い、職員間での周知を図った。

・栄養士を中心に保育士、調理員が話し合いながら食育活動（野菜の菜園、収穫、クッキング、試食会など）を行った。また、アレルギー児の除去食、肥満傾向にある子どもの食について保護者と懇談を行いながら食事の提供を行った。

*毎月、園だより、クラスだより、保健だより、給食だよりを配布した。

(3)「堅実な経営」の実践

・0歳児の途中入所3名を受け入れることができ安定した経営に繋がった。

・定期的に保育室、園庭遊具等の安全チェックを行い、危険個所の修繕を随時行った。

・日々、忙しく業務に追われている中にも、子どもの成長、保護者からの声かけを通し、保育の仕事に対してのやりがいを感じられるよう、今後も働きやすい環境づくりをしていきたい。

・職員間で備品チェックを行いながら無駄をなくすよう取り組んできた。

3、研修実績

(1) 施設内

職員会（クラスの状況報告、気になる子について、給食検討、けがの報告等）、安全対策委員会、先任者会、主任会

(2) 施設外

キャリアアップ研修（リモート研修）

保育協議会部会（園長、主任、幼児、乳児、障がい児、給食）

日本保育部会（園長、主任、給食）、就学前人権同和教育

三恵会本部主催の研修

4、行事实績（年間）

- 4月 入園式（中止）、年長児発音検査、園児健康診断、園児歯科検診
 - 5月 遠足、
 - 6月 わくわくお楽しみ会ごっこ、プール開き
 - 7月 七夕集会、就学相談
 - 8月 プール大会（バイキング給食）
 - 9月 敬老の日ハガキ投函、年中児眼科検診（中止）
 - 10月 運動会、お祭り集会、交通安全教室、園児健康診断、園児歯科検診
 - 11月 遠足、園児健康診断、火遊び防止教室、新入園児申請受付
 - 12月 クリスマス会、在園児家庭現況届提出、巡回相談
 - 1月 もうすぐ1年生撮影
 - 2月 節分、たのしいおあつまり（発表会）
 - 3月 ひな祭り集会、お別れ遠足、お別れ会、卒園式
- *毎月実施…誕生会（1月から白山神社宮司さんによる御祈祷）、異年齢児交流、食育活動、避難訓練、身体測定など

5、地域交流、ボランティア、実習生

- (1) 地域交流状況
- (2) 実習生受け入れ
神戸元町こども専門学校（1年生）
- (3) 体験学習の受け入れ
*中萩中学校2年生

養護老人ホーム
新居浜市立慈光園

令和5年度 事業報告

養護老人ホーム新居浜市立慈光園

1. 運営方針

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類相当に移行後の初年度となりました。高齢者施設に対するリスクが懸念されましたが、感染症対策ではコロナワクチンの接種、職員は市町村の頻回検査の受検を行いました。

また、新規入所者、ショートステイ利用者等への抗原検査を徹底して行い外部からのウイルス持ち込みを阻止する為に他機関との協力体制の構築に努め感染規模を最小限に抑え込むことができました。

このような中で、利用者のADLの低下による支援の増加、精神疾患を持った方や生活困窮者の入所が多くなるなど自立支援困難者の増加に伴い利用者の個人差が大きくなる中で、一人ひとりのADLに応じた処遇計画を作成し、介護保険サービスの利用や地域交流、園内行事を通じて健康維持を行い、安心して生活が送れるよう支援に努めました。経営面においては物価高騰の影響を受けましたが毎月の予算執行管理を遂行し予算範囲内で経営管理を行う事が出来ました。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ①利用者個々の状態に応じて個別処遇計画に係るPDCAサイクルに取り組み実践に努めました。
- ②利用者朝礼において、軽体操を通して健康維持を図りました。
- ③園内におけるクラブ活動や他の団体が主催するイベント等へ出展、創作活動などを推進し、生活意識の向上に努めました。
- ④庭木の手入れ、水やり、草引き等の共同作業等、作業を通して自立した生活を促すよう努めました。
- ⑤嗜好調査の実施により季節感や彩に配慮した食事提供に努め、衛生管理と食品管理を適正に行いました。
- ⑥園近隣における清掃活動を実施するとともに、金栄小学校の1年生を対象とした下校時の見守りボランティア活動を実施しました。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ①当園での生活が困難となった利用者に対し嘱託医、協力医療機関や介護関係事業所等と連携し、その人に適した施設への処遇替えに努めました。
- ②職場での勉強会開催や老人福祉施設協議会等が開催する各種研修会に参加し知識と技術の向上に努めました。
- ③愛媛県社会福祉協議会 eラーニングによるテーマ別の研修に関してはオンラインを通じて習得しました。

(3) 「堅実な経営」の取組み

- ①毎月の予算執行管理を確実にするとともに、財務諸表の点検、月々の変動、経年変化、前年同月比較を実施し経営管理を行いました。
- ②物品の適正な在庫管理に努め、購入にあたっては見積りを取るなどの経費削減に努めました。
- ③ストレスチェックを実施し、職員のメンタルヘルスケアを行いました。
- ④社会福祉施設における感染拡大防止策を市町村と連携し安全配慮を行いました。

3. 研修実績

(1) 施設内研修

- ①職員全体会（月1回）、主任会（月1回）
- ②AED講習、防犯講習、感染対応に伴う勉強会
- ③愛媛県社会福祉協議会 eラーニング（テーマ別研修）

(2) 施設外研修

- ①老人福祉施設協議会主催の研修会
- ②三恵会法人本部主催の研修会

4. 行事实績

年間を通じて、新型コロナウイルス感染症対策の為、当初の計画に対し外出行事は規模を縮小しての実施となりましたが、園内におけるクラブ活動等においては予定通り実施する事ができました。

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

愛媛銀行・新居浜支店ロビー展 展示（利用者の作品） 太鼓台訪問
地域清掃・金栄見守り隊・生き生き幸せフェスティバル展示（利用者の作品）

(2) ボランティア受入

絵手紙クラブ・お話会クラブ・動揺クラブ